

坂内利三郎と黒沢鉦山群の物語

坂内利三郎は、元禄3年（1690）9月、金山町玉梨の坂内家五代の二男として生まれ、家が貧しいため、滝谷（三島町）の庄屋、山ノ内吉衛門宅に奉公に行った。やがて18歳で年期があけると、横田鉦山で働き、横田城主山ノ内氏勝とのつながりを持った。そして24歳のときに黒沢（鈍子岩鉦山）で働き、黒沢一帯の鉦山を支配して会津藩の財政確立に大きな貢献をしたという。

坂内利三郎の遺書の中から、利三郎の事績を年譜にまとめると次のとおりである。享保6年（1721）、坂内利三郎、兄新五衛門と黒沢鈍子岩鉦山で働き始め、同11年（1726）、利三郎兄弟は会津藩、江戸屋敷に赴き金山奉行・長坂平左衛門に願って銅板10万3,500枚、1両につき銅板8貫200匁を請け負い、金子100両を受け取った。同12年（1727）、利三郎は会津へ下り、金山御役所より金子50両と米150俵を受け取り日向倉鉦山を開発。同13年（1728）、利三郎、姥沢・日向倉鉦山に江戸職人多数を呼び寄せ、1カ月で釜数15（釜床屋は鈍子岩の西に拵えた）、毎月600貫余の銅を吹きたてる。同14年（1729）、利三郎、銅板10万3,500枚を会津藩に納め代金1,150両となる。黒沢の鉦山群は昭和21年10月に閉山した鈍子岩鉦山を最後に全て閉山となった。利三郎は鉦山の成功を記し、観音像を2体作り、1体を本家菩提寺の玉梨の常楽寺に、もう1体を黒沢坂内観音堂に納めた。山ノ内氏勝の墓も同じ場所に移すも、黒沢分は昭和31年の水害でともに流失した。坂内家の隆盛を物語る異聞として民謡「会津磐梯山」の歌詞の「会津磐梯山は宝の山よ」は「会津坂内さんは宝の山よ」が元歌という人もいるが定かではない。



↑黒沢鉦山群の坑道入り口跡



↑鈍子岩鉦山選鉦場跡



今月の表紙

今月の表紙は、8月14日に
行われた「魚つかみ」から。
当日は、会場となった熊沢自
治区内の鬼光頭川に楽しそう
な歓声が響きました。
※12ページに関連記事

編集後記

町役場の庁舎が移転して1
カ月余。皆さんはもう訪れま
したか？1階には町民ホー
ルもありますので、気軽に利
用していただければと思いま
す。企画情報課は事務室が広
くなり、旧庁舎よりも快適な
職場環境となりました。でも、
少し気になることが…。
それは、小学校を改修して
造ったということ。学校とい
えば怪談がつきもの。ただで
さえ慣れない建物なのに、こ
の先入観のせいで、遅くまで
残っていると後ろが気になっ
て気になって。そのうち慣れ
ると思っのですが、しばらく
くはびくびくしそうです。
お化けは出ません 長谷川祐一